



本日、3月10日は、公立高校の一般選抜入試がおこなわれる日です。今朝、通勤途中の駅で何人の本校3年生に出会いました。みんな緊張気味でしたが、大きな声でしっかりとあいさつをしてくれました。「おはよう、がんばってね！」短いことばしか交わせませんでしたが、しっかりとあいさつをしてくれたこの人は、きっと合格するだろうな、と感じました。



さて、みなさんにとってはいよいよ1年後となりました。みなさんが受験する公立高校の日程は、すでにお知らせしたとおり、来年の3月9日（公立高校一般選抜）です。あと、残すところ364日しかないということをよく考えてみてください。

明日の新聞には、きょうの入試問題が発表されると思います。この新聞は切り取ってかならず残しておいてほしいと思います。「へえ～こんな問題か」という程度でかまいません。できそうな問題はやってみてもいいかもしませんが、やらなくてもかまいません。やってみて、まちがい、自信をなくすくらいなら、やらないほうがよいかもしれません。入試に対する意識づけとして、取っておくだけで十分です。このことからみなさんの進路がスタートするものだと考えるからです。今年出た問題はほぼまちがいなく来年は出ませんから、そういう意味でもとっておいて損はないでしょう。きびしい言い方をするようですが、「問題をとっておく」ことすらできない人は、入試を受ける資格がないと思っています。みなさんの戦いはきょうからスタートです。なお、インターネット上にも掲載されると思いますので、「令和3年度大阪府公立高等学校入学者選抜学力検査問題及び採点資料等」を検索してみてください。（すぐには掲載されないようです。4月以降になると思います。）



ある自然科学者が記念講演で、近代科学の歩みを説明し最後に、「ところで、何のために勉強するのでしょうか」と学生に問いかけたそうです。「専門のことであろうと、専門外のことであろうと、要するにものごとを自分の頭で考え、自分のことばで自分の意見を表明できるようになるため。たったそれだけのことです。そのために勉強するのです。」「外国では、自己主張しない人間は単に不勉強で無能だと思われるだけです。」

自分の考えをもつだけでなく、それをきちんと話し、書くことも重要です。べつの環境科学者は「決められた時間で自分の意見を明確に理解させる、あるいは決められた字数で早く必要なものを書くことはきわめて重要なことで、日本語の表現能力は一生の問題です。」といっています。

最近の入試では、「自分の考えをまとめて書ける」という能力が求められているように思いますが、いかがでしょうか。